

佛 說

善惡因果經鼓吹 五

特 別

八五

3713

6



善惡因果經龜鑑卷之五目錄

- 一 万境マキ心ノ作用サ名ノ名義
- 二 地藏王氏ニ破地獄ノ文ヲ授ノ術サシ
- 三 鷹鳩ト變タカニ橘ハト枳トナルノ譬キ
- 四 牛哀成虎食兄アイ
- 五 万法心ノ反作サシ名證シ并ニ譬ヒ言コト説ト
- 六 孟母ノ三遷モウ
- 七 用心ト云ノ例證シ
- 八 心意識ノ分別
- 九 尼智道力願現業ニ
- 十 二門口月八三ノ字義
- 十一 鬱頭藍弗依惡願感飛狸身ウツ
- 十二 忍辱仙ノ本縁
- 十三 世高ノ同學ト隨ヒ蟒蛇ヒ神述ト
- 十四 兄ケ聖者ト成弟ハ白象ニ生ケレ因果別ニ九論ト

目錄

五 法頭盜賊ヲ教誡スル語 六 禮佛五功德ノ引文

七 周禮九品ノ拜細釋 六 西域九等ノ禮

九 七種ノ禮法 二 憍慢ノ名義

二 畢陵伽ノ慢心ノ餘習 三 恭敬ノ名義

三 桑維カ短小 四 馮偃恥短小取長大女述

五 慢ハ矜陋ノ因カ引證 六 比丘惡塔大縁

七 車波伽爲妻求菴果縁 八 羊八狼戾ナルト云證并釈文

九 法師ノ前生羊カ物語

二 醜黒ノ生ラウクル夙業并引文

三 靈睿智凱形黒ト云縁 三 齊食ノ名釈并引文

三 阿那律本生盜賊カ縁 四 臯陶聽詔無虚刑述

世 武氏カ母聾瘂カ述

世 法華誹謗者業因感果引文

世 瘖瘂ノ報ラウクル罪因 世 八聞法八徳ノ引文

世 烏聞法生切利縁 四 早耳聾報不局一因引文

四 民田張蕪受聾報述

四 牙齒ノ生ト齒トハ自然ノ數タルノ論

四 達磨ヲ缺齒老胡ト云述 四 香ノ徳義

四 香氣ヲキラウノ罪果

四 玄瓊依佛舍利香氣瘖鼻塞述

四 靜之依心經功驗鼻肉 四 泳之方子缺唇カ述

四 蔦賈治兵述

五 穿胸國

五 蛇体云名義

五 慧靜ノ傳

五 覺名ノ父感現報弁

五 慧海依佛舍利寧蹙差迹

五 子輿力背儂

五 崔善力曲儂

五 橐駝力傳

五 打額名義直叙問答

五 弘景傳

五 費氏力心痛

六 曾參ノ孝感

六 敬彙ノ孝心

善惡因果經龜鑑卷之五

○二三答ノ中ニ三ツ標ト列ト結トナリ一ニ佛告阿難ヨリ千差萬別ニテハ標文即惣答ナリニツ今身端正ヨリ爲人扶掖ニテハ列釋即別答ナリニツ佛告阿難ヨリ舌即墮落ニイタルニテハ惣結ノ文ナリ

○初二標文

佛告阿難如汝所問受報不同者皆由先世用心不等是以所受千差萬別

夫レ心ハ萬境ニシタカツテ轉ス轉スルトヨ唯善ト惡トナリサレハ一切ハ是心ノ作用ニシテ他ニ求ニアラス心能地獄ヲナシ心能天堂ヲナス爰ヲ以凡夫トナリ賢聖トナルニテ是心ノナストコロナリ 木京兆ニ人アリ姓ハ王其名ニラス本ヨリ

一 万境ハ 心作 用多 名義



二

王氏 破地獄文 事

華嚴經 三三藏經

戒行ナクムカシサラニ善根ヲ修セス或トキ病患ニカ、リテ
 ステニ死ス二人ノモノニヒカレテ地獄ニイタル獄門ノ前ニテ一リノ
 僧ヲ見ル云ク是地獄菩薩ナリト即ラレテ偈頌ヲ誦セシム
 云、若人欲了知三世一切佛應觀法界性一切唯心造ト菩薩
 此經偈ヲ授ラリテ謂之曰此偈頌ヲ誦レ得ヌハ能地獄ノ
 苦ヲ破スト其人^王偈ヲ誦レラリテ遂ニ地獄ニ入閻魔王ニ
 三三閻王王氏ニ問汝何等ノ功德カアルト答云我ニライテ
 サセルノ善ナレ唯一ツノ四句ノ偈ヲ受持セリト閻王四句
 偈ヲ誦レ得タルコトヲ聞テ赦免レヌ因テ此偈ヲ誦スルキニ
 アタリテ聲ノイタリト地獄ノ罪人ニテコトクク解脱スルコトヲ
 得タリ後三日アツテヨミカヘル故ニ此文偈ヲ破地獄ノ文ト云也
 是ヨリ後此偈ヲ憶持レテ諸ノ道俗ニ向テ説之ト今云フ

三

三鷹 反鳩 枳成 橘弁

四

牛哀 成牛 述

五

コロハ心能地獄ヲ造リ心能佛ヲ造ルト云是ナリ ^{纂靈記ニ見エタリ} 故ニ
 心ハ虚靈不昧ニシテモノゴトニ定ス其アトヲ不見レカモ物ニ
 シタカヒテカハリモテ行モノナリ ^{鷹化レテ鳩トナルトキ鷹ノ}
 本心タチマニツキテ鳩ノ性トナル或ハ橘變ノ枳トナルトキ橘ノ
 味^{ヒナカ}永ク消スルカコトシ有情無情各定ノ性ナレ唯心ニシタカヒテ
 變レ業ヲ逐テ生ス故ニ凡ヨリ聖ニ入ルノ門アリ惡ヲ轉ノ善ト
 ナルノ事アリト ^{因縁無性論} ^{サレハ牛哀トイヘルモノアリ病コト七}
 日ニシテ忽ニ化ノ虎トナル其兄アリ围ノ戸ヲ開テ是ヲ見ル虎
 其兄ヲ食殺ス其虎トナルニイタリテハ其カレ入タルコトヲシラス
 又牛哀人トナリ又其トキニイタリテハ又虎タルコトヲシラスト ^{南推}
^{子三出} 愛ニ知又萬法ハ唯一心ノ反化ニシテ其跡タルコトヲ不見
 故陳氏曰心之体本自虚明而其用則隨物而應無有形迹矣

万法心所
譬作名

六

孟夢
三遷

カレハ摩尼珠ヲ黄ナル帛ニツ、ミテ水ニ入レハ水即黄ニナリ
 玄帛ニツ、ミテ水ニ入レハ水即玄クナル朱紫モ又シカナリ今
 一切衆生ノ心モ亦復如是我行フトコロニシタカヒテウツリ行
 モノナリ是ヲ我心ノ影響ナリトタトヘテ形ニシタカフ影ノ如ク
 撞ニシタカフ鐘ノ響ノ如クトイヘリ **孟子** 早ク父ニタテテ孤ト
 ナリ又因テ母是ヲ撫育ス其舍佛寺ノホトリニアツテ墓所ニ
 ナカレ孟子墓間ニ戯アソヒテ常ニ浮圖ノ行ヲマナヒナラヘリ
 母ノ云是我子ヲ處ヘキユヘニアラスト云テ乃シ去テ市ノ傍ニ
 舍居ス孟子常ニ商人街賈ノ事ヲノミ嬉ナセリ母ノ云是又
 我子ヲラクヘキトコロニラスト云テ後ニ遷テ學校ノホトリ居ス
 乃シ、ミライテ祖豆ヲマウケテ宗廟ヲ祭ノ事ヲナラヒ揖遜
 進退ス孟母ノ云是トコトニ以我子ヲラクヘキニ足ヌト云テ

七

用心
ト云
例證

八

心意
識ノ
分別

遂ニヨ、ニ居ノ後チ孟子天下ノ鴻儒トナレリト 列女傳ニ見エタリ 是ヲ孟
 母ノ三遷ト云サレハ孟子タクマサルニ心角ウツリ行ク何ニ況ヤ
 前生ニウユルトコロノ善惡諸業心ノ用木ニ非スト云コトナレ **用**
 心トハ心ノ主宰ヲ云ナリ李廣ヒロク群書ニ涉獵シテ後侍衛
 史トナル忽チ妻ニ謂云吾サキニ睡コトモコトニ子フルニアラス忽
 一人アツテ吾身ノ中ヨリイテ、曰君 李廣 用心過苦ス精神ノ
 堪ルトコロニアラス今君ヲ辞シ去ト云因テ恍惚トシテタノシマス
 疾ニアフテ死セリト 北齊史ニ見エタリ 此即心ヲ其事ニ用ノ證ナリ **心トハ**
 止觀ニ云對境覺知異乎木石名爲心心籌量名爲意了々別
 知名爲識矣俱舍云習起名心籌量名意了別名識矣具
 翻譯名義集 今心ト云ハ心意識フサ子用ノ詞ナリ今受報不
 同ニレ所受萬別ナリトイヘトモスヘテ是ヲ云ニ善惡ノ二業順

九

智道 現業

十日 二日 八日 字義

次現後ノ三業ヲハ出サルナリ **初**ニ順現業トハ現在ニ善惡ノ
 二業ヲツクリテ即現世ニ其業果ヲウクルヲ云ナリ簡靜寺ノ
 尼智道後ニ出家ヲマメテ俗ニカヘリ梁群南ト云モノ、所ニ
 婚嫁メ子ヲ生ス其子漸ク七歳ニナリレトキ家ニツクテ
 子ノ虐ヲカクスヘキニ便ナシ智道尼タリレトキ素絹ヲ以
 カキタリシ法華經アリ即思惟シ分別ノ水ヲ以素絹ノ法
 華經ヲアラヒ流シ白キ衣裳トナシテ我子ニ著セシム忽チ遍
 身ニ瘡生シ白キ蟲身ヲメクリテ鳴コト十餘日ハカリレテ
 死ストキニ虚空ニ聲アツテ云經ヲマフリ衣ニツクリ著タル
 トヨロノ惡報今々現ニウクルナリト **佛**祖統紀 **或**モ市中ニ
 ヲイテ二升ヲツカフ内ニラサムトキハ大ナル升ヲ用ヒ外ニ
 出ストキハ少ナル升ヲ用ユ或トキ雷電アツテ彼モノヲ震

十一

藍弗 齋頭 飛狸 身ニ 生マ

殺ス即チ脊ニ二口口月八三ト云文字アリ諸人意ヲシラス
 トキニ道人アツテ馬ノ鞭ヲ以テ脊ノ文字ノ上ニアテ見ニ
 市中用ニ小斗ト云文字トナレリ **天台神註** 是又順現業報ヲ
 シメスノ明證ナリニ順次業トハ今世ニナストヨロノ業次生ニ
 ウクルヲ云ナリ **齋頭藍弗**或トキ林間ニ坐禪シモラニ鳥シク
 鳴テ喧噪ノ亂レテ久ク禪定ニアルコトヲ得ス故ニ厭テ池邊ニ
 移リ安禪セシトモトム爰ニヲイテ池中ノ魚遊イソカハウシテ
 禪思ヲ驚シカヒソシラス是又禪カヲ全フスルコトヲ得スエヲ
 以即瞋恚ヲナシツ井ニ惡願ヲ生ス願ク我未來ニ生セトキ翅ヲ
 著ル瀬ノ身トナリテ樹ニノホリテハ諸鳥ヲ害シ水ニ入テハ
 魚ヲ食ノ魚鳥ノ怨ヲ報セント思ヒサテ異處ニウツリ行テ
 志ヲ專ニシテ禪定ヲ習ヒ非想三昧ヲ證得シテ命終レ

後ニ非想非非想天ニ生シ順次業ヲ以ノ故ニ八万大劫異熟果ヲ受ト是ヲ順次業ト云ナリステニ非想八万劫ノ異熟果業三千ヲハリテ順後受業ヲ以ノ故ニ前ノ惡願ニムクテ欲界ノ中ニ生メ水獺トナリテ身ニ羽ヲ生ス是ヲ飛狸身ト云故ニ虚空ヲ飛テハ諸鳥ヲ取テ害シ水中ニ入テハ魚蜂ヲ取テ食フト
是ヲ順後業ト云ナリ ● 已上宗鏡錄 八十二見エタリ

● 二 別答ノ中ニ自十科ノ別アリ一ニ今身端正ヨリ尊長中來ニイタルニテハ現生受報ヲ以宿生ノ業因ヲシラシムニニ爲人喜嬉ヨリ睡鹿豕ニイタルニテハ今世ノ業因ニヨツテ將來ニ畜生ノ果ヲ感スルコトヲアカスニニハ前身著木履ヨリ百舌鳥ニイタルニテハ前身ニ僧物ヲケカスモノハ今身ニ畜趣ノ中ニ墮スルコトヲ舉四ニ汚淨行尼ヨリ斬截其身ニテハ逆罪ノ重ヲアケテ諸罪ノ撮メ

イミシムルコトヲシメス五ニハ爾時阿難ヨリ得度無疑ニイタルニテハ阿難上來ノ所説ヲ聞テ如來ニ入寺ノ用ヲ問コトヲアカス六ニ佛言今身ヨリ還墮地獄ニイタルニテハ今世ノ罪因必墮地獄ノ相ヲシメス七ニ佛言為人ヨリ鼠中來ニイタルニテハ現在應報ノ相ヲアケシメテ宿世畜生タルノ品類ヲシラシム八ニ佛言為人ヨリ断氣而死ニイタルニテハ多クハ現生ノ業因ヲシメテ後生ノ異熟等流ノ二果ヲアケテ其因遠ニ子クコトヲアカス九ニ佛告阿難ヨリ大聚因縁ニイタルニテハ業因廣多ナリトイヘトモスヘテ十惡ニカキルト云事ヲアカス十六爾時大衆ヨリ為人扶掖ニイタルニテハ上ノ懲惡ヲウケテ今勸善ヲシメスコトヲアカス

○ 一 現生受報ヲシメテ以宿生ノ業因ヲシラシムル於中五

十箇ノ別アリ文ニイタリテレハシ
今身端政者從忍辱中來

大集經云端正者從忍辱中來高姓者從禮拜中來下賤者從憍慢中來瘖瘂者從誹謗中來矣此等ノ全文大集經ニ出タリ五道經云為人端正顏色潔白輝容第一見無不喜從忍辱中來矣忍辱ニ五種ノ功德ヲ得一ニ能忍所打ニ三能忍所惱ニ三六能忍所瞋四ニ八法不動五ニ煩惱不染一法數ニ諸法集要經云若人行忍辱晝夜獲安穩永離諸憂見ニタリ懣後世常端正矣智度論云阿難世々忍辱除瞋以是因緣故生便端正父母以其端正見者皆歡喜故字阿難矣忍辱トハ法界次第云內心能安忍外所辱境故名忍辱ト矣曾聞ク此賢劫中ニ玉シシス羯利王トナツクトキニ仙人アリ忍辱仙ト

十二
忍辱
仙ノ
本縁

号ス一林ノ中ニ住ノ勤修苦行ストキニ羯利王男子ス除テツレモハス唯内宮人ヲ相具シ林間ニ遊戯シ諸ノ妓樂ヲナシテ意ニトカセテタノシリ久ホトヲ經テ玉子玉子ニツキ玉子ニ内宮ノ諸女華果ヲ取シタメニ林中ニ行キアソヒヌルニ遙ニ仙人ヲ見テ諸女ニ仙ノ處ニアツル仙人諸女ノタメニ色欲ノ過タルコトヲ説ク諸女一同ニ欲心厭離シヌトキニ王子フリサメテ諸女ヲ見玉フニ一人モ見エズ玉即此念ヲナサク人アツテタフカシ去ルカト利劍ヲヌキテ處々ニ尋モトムルニ即諸女仙人ノホトリニアツテ圍遶シ坐スルヲ見テ大瞋恚ヲ生ノ云ク是レイカナル大鬼ノ我カ諸女ヲアサヒクマラカス汝ハ是レ何モノヲヤト答曰我ハ是仙人ナリト復タ問此ニアツテ何事ヲナスソヤト答テ曰忍辱ノ道ヲ修行スト玉此念ヲナサク此人我カ瞋ヲ見テノ故ニ即チ我忍辱ヲ修行スト云今正ニ試ト欲シ

十三

世高 同學 墮神

一臂ヲ伸ヨト云仙人一臂ヲノス王利劍ヲ以是ヲカル藕ノ根ヲ
断ガコトシ王復責問汝ハ是レ何人ヲト答テ云我ハ是忍辱ヲ
修スル人ナリトトキニ王ノユル一臂ヲ伸ヘヨトノ玉フ仙人一臂ヲノス王
利刀ヲ以切コト如前王ニ夕責問仙人答ルコトニ夕如前如是シテ
足ヲキリ兩耳ヲキリ兩鼻ヲキリ又身ヲシテ七分ニサカルレトモ一
念ノ瞋恚ヲ生セス是レコレヲ忍辱ノ行人ト云ナリ新婆娑論 出タリ私ニ問
忍辱ノ因何ソ端正ノ報ヲウルヤ答フ内心柔和ニシテ外辱ノ境ニ
ライテ能安忍ノ瞋恚スヘキノ人ニ逢テ還テ顔ウラカニ向故ニ
其因スクニ引テ顔良端正ノ相ヲウルナリ

為人醜陋者從瞋恚中來

今ノ全文大集經ニ出タリ上三引トコロ五道經云為人醜陋者瞋恚
故矣釋ノ世高ハ安息王ノ太子ナリ常ニ自イヘラク先

身ニテニ出家タリレトキ一人ノ同學ノ友アリ瞋恚ハナハタ多ク
乞食セシニ施主称サレハ常ニ懃懃ス世高レハ詞諫異見ス
トモツ井ニ俊改セス如是スルコト二十餘年カ間ナリ後同學ト詞
諫ノ云ク我マサニ廣洲ニ行テ宿世ノ對ヲ畢ヘシ汝明經精
懃ニシテ我カ後ニアラシ然レトモ汝カ性瞋多シ命ヲリテ來世
マサニ惡ヲウクヘシ我若レ得道共必ス相度スヘイトステニ遂ニ廣
洲ニ行キ冠賊ノ大乱アリレ路ニシテ一リノ年少ノモノニ逢ニ手ニ
ツキハキレ刀ヲヌイテ曰クモトニ汝ヲ得タリ世高笑テ曰我レ宿
命ニ汝ニシムク故ニ遠ク汝カ忿怒ヲ相ヒ償フコトサラニ是レ前世ノ
時ノ意ナリ遂ニ頸ヲノベ又ヲウク容懼ノ色ナレ賊ツ井ニ是ヲ
殺ス見ル者道路ニ盈滿ス世高ノ神識カハリテ安息王ノ太子ト
ナ即今時世高ノ身是ナリ後ニ世高中國ニ行テ化度レ至フニ

錫ヲ江南ニ振テ云我マサニ廬山ニ行テ昔ノ同學ヲ度スヘシト
彼邾亭湖ニ廟アリ此廟モト靈威アリ高廟中ニ入ルニ廟神
高ニ告曰ク吾レカシ外國ニシテ汝トトモニ出家シ同學ス吾レ
コシテ布施ヲ行スレトモ本性瞋恚多シ故ニ今邾亭湖ノ大
蟬醜陋ノ廟神トナリスカシ布施ヲ行セシヲ以テ故ニ世人珍
玩シテハタ々豊ナリ本ト瞋恚ヲナセシ故ニ此醜陋ノ神報ニ墮
今モトノ同學ヲ見ル悲欣言ヘキニタラシヤ正ニ我レ壽命旦夕ニ
ツキナシカルニ我形醜陋ニシテ長大ナリ若レコニライテ命終共
江湖ヲケカサシ今マサニ山西ノ澤中ニ渡ヘシト吾身滅後恐ク
地獄ニ墮在セシト必セリ吾ニ緡千足ト其外雜寶物アリ是ヲ
以吾カタメニ法ヲタテ塔ヲイトナシテ善處ニ生セシメ至ヘト高ノ
云我汝カタメニ故ニ來リテ相度ス何ソ形ヲアラハサルト廟神ノ

云形チナク醜陋ナリ衆人我ヲ見ハ必ス懼レナシト高ノ云但
出ヨ衆人アマシメシトトキニ廟神牀ノ後ヨリ頭ヲイタス乃是
醜陋ノ大蟬ナリ尾ノ長短ヲシラスト梁僧傳ニ出タリ今此廟神前生瞋
恚ノ業因ニヨツテ醜陋身ノ報ヲ得タリキ今實業所感ノ凡身
ヲユスト口ノ瞋恚盛心何ソ來世ノ形醜メヌカルヘキニ道ナキコト
アラシヤ問瞋因何ソ醜陋ノ身ヲ感スルヤ答フ因果相順スルコト
係毫モタカハス恰モ形ニシカフ影ノコトシ謂ク前生ニライテ其容
良柔順ナリトイヘトモ瞋恨内ニヌクムルニヨリ親疎自他ヲカハリ
ミス毎事イカリヲナシウラカナリシ類類ニ忽ニ筋ヲ立眼ヲカ
言ヲアラクシ牙ヲナラシ齒ヲ咬其殘縁直ニ引テ今世ニ同
故ニ醜陋ノ身ヲウクルナリ聖人イカリヲウツサスト云是ヲ牽
リニアラサル歟

為人貧窮者從慣貪中來

輪轉五道經云為人慣貪不^{マテ}已好獨食者死入地獄
 墮^{ソナレ}餓鬼中出生為人貧窮飢餓衣不^{ネカチ}蓋形食不^{マテ}供口矣
 今五道經ノヨク慣貪ノモノ地獄餓鬼ノ中ニ生スルハ是異熟
 果ナリ人中ニ生ノ貧窮飢渴ナルハ是等流果ナリ今當經
 ニヨク唯等流習果報ヲアケテ因果ヲシメスナリ
 去迦葉佛ノトキニ兄弟二人アリ兄ハ持律坐禪ノ一心ニ佛
 道ヲ求ムシカレトモ其性慣貪ニシテ布施セズ弟ハ布施修福
 業ヲノミコノミテ破戒無慚ナリ今日釋迦如來ノ出世ニヨリテ
 兄ハ出家學道シテ羅漢果ヲ得タリシカレトモ衣ツ子ニ形ヲカ
 サス食ツ子ニ口ニアカス終日食ヲ乞トモ一鉢ヲ得ルコトナレ弟ハ
 大白象ノ中ニ生ノ國王ノタメニ愛セラレテ金銀珍寶ヲ以其

十四

兄弟 因果 別論

身ヲカサレリトキニ兄ノ比丘象ノ^カ廐ニイタリ象ニ向テ云我カレ
 汝トトモ罪過アリ象比丘ノ語ヲキイテ即宿命ヲレリ感
 信シテ三日マテ食事ヲクラハス守象ノ者^{ヲチ}惶怖シテ即帝
 王ニツク王守象ノモノニ問テ先ニ人アツテ此象ヲ犯スモノ
 ナキカト守象ノモノク云唯一人ノ沙門アリ象ノホトリニ來テ
 須臾シテカハルト帝王トキニ人ヲシテ彼沙門ヲタツ子モトメテ
 云汝象ノホトリニヨツテ何事ヲカ語シト沙門ノ云此象ハ是
 我前身ノ弟ナリ弟ハ前生ニ廣ク福業ヲ修シテ布施ヲナシ
 學問持戒ヲナサス故ニ象トナレリシカリトイヘトモ本布施セシ
 故ニ飲食備足シ種々豐饒ナリ我ハ唯佛道ヲ修シテ布施セズ
 今道果ヲ得ルトイヘトモ乞食スルニ得ルコトスクナレ故ニ今飢渴ニ
 ラヨヘリト

譬愈經ニ見エタリ

如是六通無尋ノ羅漢スラ慣惜ニシテ布

十五

法顯 盜賊 ヲ劫 誡 語

施セサレハ貧窮饑餓ノクルレニアヘリ何ニ況マ其餘ノ貧窮無福ナラシモノ宿生ノ慣貪鏡ニカケテアキラカナラシモヲマ釋ノ法顯三藏同學數十人トトモニ稻ヲ刈トキニ貧窮飢渴ノ盜賊來リテ其穀米ヲ奪ヒ取シトス諸ノ沙門ハ悉ク逃起リ又唯法顯三藏ノ獨リトマリテ賊ニ語テ云汝若シ穀米ヲ取シテ欲セハ意ニマカセテ取ルヘシ但シ郷等昔シ慣貪ニシテ布施セサル故ニ今飢渴貧窮ノ身ヲウク今復人ノモノヲ奪ヒトシハ恐ク未來ニイヨク貧窮ナラシ事ハタレカシト爰ヲ以貧道法顯アヲカシメ汝等カタメニ未來ニ惡果報ヲウケシ事ヲウレウルノミト言フアリテ還ル諸賊法顯ノ語ヲキイテ穀米ヲステ去ルト梁僧傳ニ見エタリ此即貧窮ハ定テ是慣貪ノ果ナルコトヲ

為人高貴從禮拜中來

十六

禮佛 五功 德

十七

周禮 九品 ノ拜

五道經云夫人豪貴國王長者從禮佛法僧ノ中來佛三寶ナリ矣又大集經ニモ見エタリ如上增一阿含經云禮佛有五功德一得端正二得好聲三多饒財四生處高貴五生天上矣此等ノ諸文ニヨルニ禮佛ハ是高貴家ニ生スルノ修因ナルコトヲモテシカルニ禮拜ニ諸義ヲフクメリ周禮俗典ノ中ニ九品ノ禮拜アリ一三誓首禮謂ク臣下君ヲ禮スルノ拜ナリ誓ハ至ナリ首ハ頭ナリ拜シテ頭ヲ地ニ至ラシムナリニ三頓首拜謂ク平敵クスルモノナリ諸侯タカヒニ概拜スルカコト即頭ヲ以テ下ニ向虚擗ノサテ首ヲ地ニイタラシムルナリ故ニ頓ハ字註ニ下首至地也トシカラハ上ノ誓首拜ト頓首拜ト何ヲ別ソヤ答フ誓首ハ直ニ頭ヲ地ニイタラシメ頓首ハ虚擗シテ漸後ニ首地ニイタル是其別ナリ

十八

西戒
九等
禮

十九

七種
禮法

三六空首拜謂之是ハ君臣下ニ答フルノ一拜ナリ即頭ヲ以手ニ
 イタルナリ四三振動拜謂ク敬重ノイタリ戰栗ト身ズルイレ
 動變ト身ヲウコカレテ拜スルナリ五三吉拜謂ク拜ノ後ニ誓
 首ス六三凶拜謂ク額ヲ地ニフレテ後ニ拜ス七三奇拜謂ク奇ハ
 不偶ナリ禮簡ニシテ再拜セサルヲ云ナリ但一拜ナリ八三廢拜
 謂ク廢ハ報ナリ答拜ヲ云ナリ 即再拜是ナリ
 九三肅拜謂ク身ヲ直シ容ヲ肅テスコレ手ヲ下ヲ云今ノ婦人
 拜ノコトレ俗禮モツテ如是佛教ナラ禮敬ヲ初トス 故ニ西戒
 記云致敬之戒其儀九等一發言慰問ニ府首示敬三舉手
 高揖四合掌手拱五屈膝六長跪七手膝踞地八五輪俱屈九
 五體投地矣 或ハイハク禮法ニ七種ヲ存ス一ニ我慢心禮謂
 次位ニヨル故ニ我ヨリ位タカキモノニハ心ニ恭敬ナク師ヲ仰動スル

心モナク是ニヨツテ身ニ拜ヲナストイヘトモ心ハ外境ニ馳チリテ眞
 實ノ思ヒナレタトハ確ノ上下スルカコトレ空ク獲コトナレ是ヲ我
 慢禮ト名クニ二唱和禮謂ク是ハ我慢ニアラストイヘトモ心ニ
 淨想ナク略威儀ヲタシテ身心イッハリテ恭敬スルニ似多ク是
 ニトニ口ニ唱ヘ心ニ散スルニヨレリ是ヲ唱和禮ト名クニ三身心恭敬
 禮謂ク形チニ心ト共ニ恭敬ノ異念アルコトナク供養恭敬ノ情ニ
 厭足スルコトナク功德廣大ナリトイヘトモ猶是智ナラス故ニ後ニ多ク
 退没ス是ヲ身心恭敬禮トナツク四ニ發智清淨禮謂クニトニ
 佛境界ニ達スルニヨリ慧心明利ニシテ深ク法界ヲシル今息ハ
 是虛通無礙ナリト達ス故ニ禮佛ヲ行ス心ニ隨テ現量ノ
 一佛ヲ禮スルニ即一切佛ヲ禮ス故ニ一禮一切禮全是一禮
 ナルコトヲ即是淨業キハ一リナク果報カキリナレ是ヲ放智

清淨禮ト名ク五ニ遍入法界禮謂クマコトニ行者ノ想觀
 自巳ノ身心ヒトシキニヨル法ハ本ヨリ法界ヲケレス亦諸佛
 心外ニアラス又々諸佛ノ身内ニアラス我外ニアラス我内ニ非
 自性平等ニシテ本ト増減ナシ今一佛ヲ禮スルニ即アマ子ク
 諸佛ニ通ス是ヲ遍入法界禮ト名ク六ニ正觀修誠禮謂ク
 コレハ是自心佛ヲ禮スルコトヲ云他境他身ノ佛ヲ禮スル
 コトヲ縁セス何ヲ以ノ故ニ如是ナルソト云ニ一切衆生ニ自
 佛性平等ノ本覺アリ故ニ佛性ヲ見ント欲セハカナラス
 已佛ヲ觀セヨトナリ即同体ニシテ無ニナルヲ正觀禮ト名ク
 七ニ實相平等禮謂クコレ即上ノ正觀禮ト大意全ク同
 シカレトモ前ハ禮アリ觀アリ自他ノ兩異ヲ存ス今此一禮ハ
 九聖一如体用同融シ如々平等ニシテ古今異ナク此心ニ

安住スルヲ平等禮ト名ク法苑珠林ニ出タリ今此七禮前々淺鹿ニシテ
 後々深細ナリ
爲入下賤從憍慢中來

二十 名義 憍慢 廿一 畢陵 伽慢 餘習

憍慢トハ憍ハ驕恣也逸也慢ハ五ニ輕侮也不畏也字彙
 惰也怠也据也易之忽也不敬也 俱舍頌曰憍由染自
 法慢對他心舉 矣私ニ云憍ハ是奢ナリ謂ク自分ニ得トコロノ
 法ニライテ染著ノ傲逸ナルヲ憍ト云慢ハ是慢也我ニ得トコロノ
 法ヲ以他ノ所得ニ對ノ自心ヲ高ク舉揚ノ他ヲ慢蔑スルヲ
 慢トハ云ナリ今イハユル自ヲ高クアケ他ヲナイカレロニセシ業因ニ
 ヲシテ今又々他ノタメニカレシメイヤレラル身ヲウクルナリ 昔
 佛弟子ニ長老畢陵伽婆蹉ト云アリ常ニ眼病ヲツラナリ
 是人乞食ノ常ニ恒水ヲワタルニ恒水ノホトリニノソニテ 彈

指ノ云小婢水神ノ我ヲトメテ流スコトナカレトトキニ河ヲ
 ワタルニ水即兩方ニワカレ去リ又故ニ乞食ニ往來シモフニ
 更ニサワリナシ爰ニ恒神佛所ニイタリテ佛ニ白ノ言サク
 佛弟子畢陵伽常ニ我ヲソレリテ云恒水ヲ渡タヒコトニ小
 婢トメテ流スコトナカレト佛畢陵伽ヲ呼テ告テ至ク
 汝チ恒神ヲソレリアナトルコト大ナルアヤマリナリ恒神ニ向テ
 懺悔シ報謝セヨト畢陵伽即時ニ掌ヲアハセ恒神ニ語テ
 云小婢イカル事ナカレ今汝カタメニ懺悔ス必ス我ヲトメテ
 流ス事ナカレト是トキニ大衆大ニ是ヲ笑フ云何懺悔シテカラ
 何ソ又タ恒神ヲアナトリノシルヤトトキニ佛ケ恒神ニツケテ
 至ク汝畢陵伽掌ヲアハセ懺謝スルコトヲ見ルヤステニ憍
 慢ナラシテレカモ必ス流スコトナカレトイヘル事正ニ是ヲシルヘシ

此即惡心ニアラス此人五百世カ間タ常ニ婆羅門ノ家ニ
 生ノ憍慢高貴ニシテ諸人ヲ輕賤ス今過去ノ餘習ニ
 ヒカレテ口ニハ憍慢アツテ心ニハ其念ナシト智度論ノ如是
 聖者ノ上ニスラ慢心ノ餘薰アツテ其思ヒタチカタキアリ
 凡愚ノ憍慢マモスレハ諸人ノヲニストコロナリ來生ノ下賤
 必然タラシモノヲマ唯フカクツクシニ傲倨慢夢ノ心ヲ生スル
 事ナカレト云云

爲人長大從恭敬中來

輪轉五道云爲人殊長恭敬人故矣今長大ト云ハ唯長
 高ク大ナルヲ云ニハアラス當經ト五道經ト交會シテ是ヲ
 カシカヘ見シ當經ノ長大ト云ハ長タカク大ニシテ其形チ殊好
 ナルヲ云ナリ

恭敬トハ二字トモニウヤマフト訓スレカレトモ

恭敬
名義

心ノウヤマイト形ノウヤマイト字意少シ異ナリ韻會云在貌
 為恭在心為敬矣又云貌多心少為恭心多貌少為敬矣
 問何方故ソ恭敬ノ因長大殊好果ヲウルヤ答恭敬ト身体ヲ
 カサリトノ人容貌ヲタシウルハレウスルヲ云ナリサレハ形ト心ト
 二物ニアラス心ノコトク形ニアラハレ形ニアラハスコトク心ニ思フ
 故ニ知ヌ心ニ思フコトク形スナラニ顔ウハレウレテ人ヲ恭敬ス
 爰ヲ以今身マタ殊長ノ果ヲウクルナリ性理字義云身
 體嚴整容貌端莊此是恭底意但恭只是敬之見於外
 者敬只是恭之存於内者敬與恭不是二物如形然未有内
 無敬而外能恭者亦未有外能恭而内無敬者矣己則佛家
 イハユル色心不二ト相似セルノ者歟

為人矧短從慢法中來

廿三

短小
桑維

廿四

短小
馮偃

廿五

矧短トハ今ニ世流傳ノ本ニ座短ニ作ル大ナル謬ナリ短ハ戈何
 切音坐身短韻會ニ短也短ハ促也不長也五道經云為人
 短小輕慢人故矣今イフトコロノ矧短ハ上ノ長大ニ對シテ
 見ルニ形チ短小ニシテ醜陋ナルモノヲ云ナリ
 人トナリテ形チ醜フシテ身レカモ短小ニ面又長ニ常ニ鏡ニシテ
 曰七尺ノ身一尺ノ面ハレカシト後ニツ井ニ宰相ノ官位ニイタルト
 五代史ニ又馮偃ト云モノ我身ノ短小矧陋ナルコトヲ恥テ恐
 子孫又我ニ似コトヲハカリテ子ノ仇モマタ短陋ナル故ニ長カキ
 婦ヲメトレリ故ニ果シテ仇カ妻勤ヲ生リ長ケハ尺ナリ後チ
 仕テ尚書ノ官ニ進リト
 唐史ニ是等ハ三チ短小醜陋ナル
 人ナリ暗ニシル宿世慢法人ナラシ事ヲ
 即憍慢ヲ生スルモノハ死ノ東縛地獄ノ中ニ墮レ諸ノ苦

中ニ夜ステニアケヌ故三人ノ見ゴトヲソレテ園ヲ出テ能ク
樹ノ上ニホリ蔵居ヌトキニ王ト婆羅門ト園ニ入り菴摩
羅果ヲ食セント欲ス即婆羅門ハ下ニアリ王ハ高座ニアリ
婆羅門王ノタメニ法ヲ説クトキニ果ヲヌム人樹上ニテ是ヲ
見テ思ヘラク我今王ノ果ヲヌムコトモコトニ以無法ナリ王
憍慢心ニヨル故ニ師ハ下座ヲアリ王ハ自高座ニアツテ説法ヲ
聽聞ス是ステニ無法ナリ婆羅門利類ヲ貪故ニ下座ニ
アツテ王ノタメニ説法ス是又無法ナリ今王ト婆羅門ト我ト
三人トモニ無法ヲ行フナリ即樹上ヨリ下テ王ノ前ニイタリテ
三人ナカラ無法ナリト云偈ヲ説テ去リヌト善見律今ノ國王
果報イニシキトイヘトモ見慢法ノ人ナリ來生ノ受報短
醜陋ナラシ事カラサルニイナレルキモノヲヤ

サハ

羊ハ
狼戾
尤證

爲人狼戾從羊中來

五道經云爲人狼戾自用者從羊中來矣項藉傳云宋
義下令軍中猛如虎狼如羊貪如狼矣註謂羊愈牽愈
不進矣狼戾ト或本ニ狼戾ニ作ル狼ハ性ハ貪リ又戾故ニ
狼貪狼戾ト古語ニイヘリ併カテ今ハ狼戾ノ本ヲ正トスハ狼
王ニ云五閑切犬鬪聲也戾ハ説文ニ曲也增韻ニ違也韻會
身曲戾也又狼戾徐云犬善出卑戸會意矣今狼戾ノニ
字モトルトモ又ハモチルトモ讚世俗ニイハユル子ルト云是ナリ
サレハ羊ハ性徳トシ人ニ曲違ヌルモノナリ故ニ牽ハイヨヒシテ
ス子モチリテ跡エモトルモノナリ然ルニタメニ微善ヲ結縁ニシテ
人道ノ生ノウタトイヘトモ宿世ノ性執薰縁ニテ朋友ノ交リ
不順ニ狼戾自用私尤ナルモノナリ今生ステニ介ナリ未來

廿九

法師

前生

卷多

縁

近ニアラシ唯心ノ師トナツテ心ヲ師トセサレトイヘルノ遺誠
 先言マコトニ耳ニアリ因テ堅ク守ル足又ヘキモノナリ俗
 儒ニ克己復禮イヘルモ己カ私欲ニ勝去ノ義ナリコトニ今
 心ト冥符セルモヲマ釋ノ轉明ノ云ク或法師今現ニ大乘
 法ヲ誹謗ノ未來ニ惡果ヲ得ヘキコトヲカヘリニサルモノアリ
 轉明ノ云ク其ノ法師ハ前生ハ羊ノ中ヨリ來ルモノナリト
 イヘリ唐僧傳ニ出タリ今推ハカリ思フニ此法師世人ト狼戾ニシテ
 大乘ヲ誹謗セルノ人ナリ
爲人黑瘦從鄣佛光明中來
 瘦ハ扶救切音覆勞也又房六切音伏病重發也矣至
 瘦ハ扶又切勞也再病也矣謂ク形チ黒色ニシテ醜シカモ
 勞病ナルモノヲ云ナリサレハ五道經云爲人醜黑渡佛光

三十

醜黑

ノ形ヲ

ウクル

夙業

卅一

明故矣シカルニ今身ニ人ノ光明アルヲハ隱蔽ソレニシラス
 光明ヲ以三寶ヲ供養セス反テ三寶ノ光明ノ具ヲ偷三
 取テ己カ用ニシテテ自照スモノハ死ノ黒耳黒繩黒闇地獄ノ
 中ニ墮ノ無量ノ苦ヲウケテ地獄ノ苦ヲウケテハリテ蟻
 中ニ墮ノ光明ニアフコトスクナシ若又々微善ニアフテ人身ノ
 生ヲウクトイヘトモ形容醜黒ニシテ垢膩不淨ナリ故ニ世
 人ニ厭惡レソレノミナラスカサチ双眼前テ天地ヲ見ルコトアタサルナリ
 此即光明ヲ隱蔽カケラ佛ノ光明ヲヌスミニヨルナリ雜寶藏經ニ
 シカルニ藏經ノコト只來果ニ紛アカレ當經ハ現果ニ屬シテ云
 シカレトモ因果モト一ツナリ故ニ今引用ナリ光鄣トハ佛塔光
 燈ノ具ヲヌスミ或ハ光明アルヲカクシ蔽ル故ニ形黒勞病ノ
 報ヲウクルナリ釋ノ靈睿ハ身相黒短ニシテ身多五尺也

靈曆
智凱
ノ形
黒

言ノ及フトコロ通悟ヲ先トス常ニ大乘ヲ講談スルヲ以且暮ノ業トセリ又夕釋ノ智凱形相ハチ夕黒シマコトニ鳥ニ類スガ故號ノ鳥凱ト云見上唐僧傳今ニ高僧ノ傳ヲ付思ニ往過ノ酬報ナラシ耳

爲入緊辰月從嘗齊食中來

緊ハ急ナリキヒト訓ス脣アママリテ唇ニ作ル非ナリ謂ク緊脣ハ脣及カハリテ不台齒外ニアラハレ見元ヲ云ナリ仇池筆録云歐公曰有僧相我云耳自于面名滿天下脣不著齒無事得謗其言頗驗矣脣不著齒ト云コレ是ヲ緊脣ト云ラ蓋シイフ歐公ハ是レカシ齊食ヲカシナムルノ人ナラシ歟嘗トハ説文口味之徐云口試其味也矣正ク齊食ヲ食ノ義ニアラス指ラ鼎ニ添テヌスニ味フルク義ナリ齊食ヲ口ニ

冊二

齊食
名釈

ナムルコトヲユルサ、ルハ好事ナキカ故ナリ謂ク貪心ニシテナムル故ニ齊法ヲカスナリ齊法經齊食トハ齊トハ身口二業ヲ齊ル義ナリ謂ク朝明相ノ出ルトキヲ待テ粥ヲ食ヒ日中午ノニ食ヲクワフヲ云ナリサハ禪録ノ中ニ如何は無事底人早朝喫粥時午時喫飯トイヘル是ナリ毘婆娑論云夫齊者以過中時不食爲体矣只是中道ヲ表スルノ義ナリ日中ヨリ前ニ食スルハ正食ニアラス中道法界ノ外ニモ法アルコトヲ表ス或ハ中道ノ前方便ナルコトヲ表スルナリ一代法數云一天食時謂清旦時則諸天所食時也二法食時謂三世諸佛皆以午時日爲法食時過此即非時食三畜生食時謂日暮時也四鬼神食時謂晝夜時也矣三是午時飯ヲ以齊食ト云ナリ即三世ノ諸佛ノ食時ナリ今白俗アツテイタツラニ齊食ヲ嘗モロニテ脣ヲウルラス

故今緊脣ノ報ヲウクルナリ
為人赤眼從情大光明中來為人雀目從
縫鷹鳥眼合中來

業報地獄經云謂有衆生兩目盲瞎都無所見或舐樹木或
墮溝坑於時死已更復受身亦復如是其罪所致佛言以前
世時坐不信罪福障佛光明縫鷹鳥眼合籠繫衆生波羅盛
頭不得所見故獲斯罪矣赤眼トハ解スルニ義アリ一六眼圓
黑眼黃赤ク猿ノ眼ニ似タリ故ニ世俗ニ猿眼ト云南蠻國邊
鴻ニアル黒身坊ノ類其身黒シテ眼目猿ニ似タルモノコト是
ナリ一六眼赤ク爛テ陥リ血ツ子ニ込テ眼コ明ラカナラサルヲ
云ナリ火光明ト懸續燃燈ノ一類供佛莊嚴ノ隨一ナリ智度
論云若人盜佛塔中珠及盜燈明死墮地獄若出爲人世世

卅三

阿那律ノ本生

生育矣シカル人アツテ佛燈ヲ然レ供養スヘイトイヘトモ
還テ悋惜ノ情アリテ時ニソシテトホサス佛前暗昧ナリ故
赤眼ノ報ヲ感ノ眼コアキラカナラサル事ヲウルナリサレハ佛
燈明了ニシテ尊像ヲ見ルトキハ其利ヲウルコトアリ
九十一劫サキニ毘婆尸佛入涅槃ノ後阿那律盜賊ヲナセリ或
トキ佛塔ノ中ニ入り塔物ヲ盜ミテ欲スルニ佛前ノ燈カスカニシテ
ステニ滅トス賊人鍬ヲ以燈ヲカキタテ明ニシテ塔物ヲ見盜
取ラトセシトコロニ忽ニ佛像ヲ見テ威力心腑ニ感シ内薰密益
寒毛卓豎シテ則自念言スラク今他人ヲ見ルニ所持財物ヲ
ナケウツテ福善ヲモトム我何ソ佛法物ヲウハイ取シ事ヲセシト
則盜ニ取ルトコロノ佛物ニテ捨去ス此モノ佛塔ヲカキタテ
明了ニナシ、福德ノ因縁カニヨツテ從是以來九十一劫恒ニ

因果經龜鑑卷五

二十

善處ニ生シ福祐日々ニ增長ノヲトロウルト云コトナク其後今日釋迦如來ノ出世ニアラテ出家學道ノ阿羅漢果ヲ得天
 眼第一ノ聖者タリキト譬喻經ニ見エタリ此即逆縁ナカラ佛燈ヲ明
 ナラシムル功德力ニヨツテナリ何ニ況ヤ人トシテ佛光明ヲ云
 コトアラシマ雀目トハ醫經ニイハ元小兒疳疾ニヨツテ夜陰ノ
 氣ニカツテ目見ルコトアタカサラ雀目ト云世ニ鳥目ト云モ
 是ナリ今ハ大人小人ニカハラス眼見エサルヲ雀目ト云ナリ
 爰ニ知又鷹ハ眼コ澄アキラカニシテ物ヲ見ルコト速ナリ
 シカルヲ其眼コヲヌヒ合セ晝ラシテ夜ノ如クナラシムル故ニ
 雀目ノ報ヲ得ナリ

爲人瘖瘂從謗法中來

五道經云爲人瘖瘂謗毀人故矣地獄經云謂有衆生

刑四

聾陶

無虛

刑五

武氏

母

瘖

瘖吃瘖瘂口不能言若有所說閉目舉手乃不言了何
 罪所致佛言以前世時坐誹謗三尊輕毀聖道論他好醜
 求人長短強誣良善憎嫉賢人故獲斯罪矣瘖瘂ト云云
 不能言矣クチモルトモコトモルトモ又ハラシトモ訓ス或ハ瘖ト
 瘖ト其心少シカルナリ法位師云瘖者無聲不言瘖者有
 聲無詮表矣聾陶ト云人瘖瘂タリシナリトキニ檢非
 違使ノ官ニス、ニテ是非ヲタ、ス事アキラカニ天下ニ虛刑
 ナレ故ニ聾陶ハ瘖ノ有實乎能言也淮南子ニ見エタリ馮翊武
 鄉ト云トコロニ女子アリ耳聾ニシテ又瘖瘂ナリユヘラ以テ
 嫁セシ事ヲモトムレトモ人是ヲ不入唯野ニイテ樵リスアル
 人ノタメニ犯レテ一男子ヲ生ム其種姓ヲシルコトナレ申省構
 云生レテ武鄉ニアリ武ヲ以姓トスヘイトイヘリ隋史ニ聾陶

卅六

法華 誹謗 因果

卅七

瘖瘂 罪因

及ヒ武氏カ母ニテ是業病ノ追フトヨロミナラシ若ハ佛在世ニモ
 アレ若ハ佛滅後ニモアレ **此法華經典ヲ誹謗スルコトアラシ**
 モノ又此經ヲ讀誦シ書持スルコトアラシモノヲ見テ輕賤憎嫉
 セルモノ此人ノ罪報命終シテ阿鼻地獄ニ入り無數劫ヲ經
 歷ノ地獄ヨリ出テ、畜生トナリ又人間ニ劣復ノ即聾盲
 瘖瘂ニテ諸根不具足ナラシト **法華經ニ** 或ハ先世ニライテ
 他ノ舌ヲキリ或ハ他ノ口ヲフサキ或ハ惡藥ヲアタヘテ言語
 スルコトヲ得サラシメ或ハ師匠父母ノ教訓ヲ聞テ反テソムキ
 或ハ惡邪ノ人トナシテ罪惡ヲナセハ惡趣ニ生シ福善ヲナセハ
 善處ニ生スルト云コトヲモ信セス正法ノ語言ヲ破謗セシモノ地
 獄ニ墮シ地獄ノ苦ヲウケヲハリテ後 **微善ニアラフテ人間ニ**
 生スルトイヘトモ瘖瘂ノ報ヲ感スルナリト **智度論ニ** 如是
 出タリ

諸説ヲ見ルニ瘖瘂ノ受報其因多端ナリ今ハ其一ツヲ
 アケテ餘ヲ撮スルナリ

爲人耳聾從不喜聞法中來

五道經云爲人聾盲不聽法故矣聾ハミ、シイト訓ス字
 彙云聾盧容切音龍耳無聞也矣釋名聾龍也如在
 蒙籠之内聽不察也矣鶴林玉露字義曰宋壽皇問王
 季海曰聾字何以從龍從耳對曰山海經云龍聽以角
 不以耳矣サレハ龍耳アリト雖聞クコトアタハス角ヲ以モノヲ
 聞ク故ニ耳聞コトダキヲ聾ト云ナリ **サレハ聞法ノ德**
 用ハクハ多クシ普曜經云若有賢人聞是經法又手自皈
 成八功勳一得端正好色二得力勢強盛三得眷屬滋茂四
 速得辨才無量五學疾得出家六所行清淨七得三昧定

卅八

聞法 八德

卅九

鳥聞法 利天 三生

八得智慧明無所不照矣
 丘アリ林中ニ獨坐ノ經ヲ誦トキニツノ鳥アリ法ヲ聞敬愛
 シテ樹上ニアツテ聽トキニ獵師アリ是ヲ見テ射テ死ス此
 鳥聞法ノ良縁ニヨツテ忉利天ニ生シ面貌端正ニ倫匹アル
 コトナシトキニ宿命ヲサトシテ我今此天ニ生ノ顔貌端正
 嚴ノ果報ヲウルコト比丘ノ經ヲ誦シ玉ヘルヨリ我其法ヲ聞ク
 善縁ニラシテ此天ニ生スナリト即天華ヲ以人中ニ下リ比
 丘ノトコロニイタリ供養ス比丘具サニテ其カタメニ説
 法シテフニ天人是ヲキイテ即須陀温果ヲ得テ天上ニカヘル
 佛法非器タル禽鳥スラステニ法ヲキイテ尚福報ヲウルコト無
 量ナリ何況ヤ人倫ニライテ信心無ニ聞法セハ寧ろ善果
 報ナカラシヤ賢愚經ノコトナリ 如是聞法功德カアルコトヲモカヘリニ其

四十

耳聾 報不 寫一 因證

四一

民田 張蕪 孽 疾 疾 述

四二

性愚意ニシテ説法講論ノ席ニソツニテハ耳ヲ塞テ不聞頭ヲ
 掉テ逃去ル故ニ來生耳聾ノ報ヲウケルナリ 或ハ曰耳聾
 ノ行因是ニ多端ナリ師長ノ教訓ヲウケス不行反リテ瞋恚ス
 モハ是罪ヲ以ノ故ニ聾聾ノ病疾ヲウケウ或ハ一々衆生耳ヲ
 キリ若ハ衆生ノ耳ヲ破リ或ハ佛塔僧塔ノ槌槌大鐘 鈴 貝 鼓
 等ノ類ヲヌスルモ耳聾ノ罪報ヲ得ナリト智度論ニ出タリ 本三
 原縣ノ民田薩埵ト云モノ生レテヨリ以來耳聾ノ病ヲウケ又
 張蕪ト云モノ胎内ヨリ瘖瘖ナリキト四朝高僧傳ニ見エタリ 此即佛
 法ヲ聽聞スルコトヲコノムサルモノナラシノニ
 為人缺齒從喜咬骨穴中來
 缺齒トハ牙齒缺脱ノ義ナリカケバト訓ス字彙云上曰齒下
 曰牙矣 醫經ノコト只前ノ上下ノ二八十六ヲ齒ト云後ハ上

牙齒ノ生ト自然ノ數升

下四々十六ヲ牙ト云牙齒合テ三十二箇アルモノナリ説文ニ齒口斷骨也禮記註疏云男子八月生齒八歳而齠女子七月生齒七歳而齠是人壽之數矣今私ニイハユル男ハ八ツカサトル故ニ八月ニシテ齒生シ八歳ニシテ齒落カハルニ八十六歳ニシテ腎精滿チ齒牙充實シ八々六十四歳ヲ腎精ツキ齒ヲツ女子ハ七月ニシテ齒生シ七歳ニシテ齒ヲチカハルニ七十四歳ニシテ腎精滿チ齒牙充實シ七々四十九歳ニシテ精ツキ齒ヲツ是ハコレ自然ノ數ニシテ業因ノナストコロニ非ス今其人壽ノ數ニヨバズ或ハ病疾ヨリ或ハ折傷等ニヨリ或ハ毒藥等ニヨリ或ハ自齒カケ聲音々々シカラス至味口ニシホヘサルアリ此等ハ是前生ニ徒ラニ骨肉ヲ咬食ヘルノ因ヨリヲユル

菩提摩厚光統律師カ毒藥ニテテラレテ

遠磨光統毒藥

四四

徳義

齒カケヌ故ニ缺齒老胡ト字イハルモ宿業ノ逐トコロナラシ咬骨宮トハ曲禮母齠骨矣前漢食貨志罷夫羸老易子而齠其骨矣咬ト齠ト本ト同字ナリ突ハ右ノ肉ノ字ナリ爲人塞鼻從燃不好香供養佛中來塞鼻トハ鼻ノ不聞ノ病ナリ字彙云鼻塞曰鼈矣是鼻ノ病ナリニカルニ燒香供佛ハ本ト是佛ヲ請スル事ヲ擬スサレハ凡夫ハ佛ト其心ヘタル故ニ目ニ佛ヲ見シトモシラス爰ヲ以テ佛ヲ香ヲタキ徧ク十方一切ノ凡聖ヲ請セシムルコトヲシテ增一阿含經云若有設供者手執香鑪而唱時至佛言香爲佛使故須燒香徧請十方矣感通傳云天人費氏云人中真氣上熏於空四十万里諸天清淨無不厭之但以受佛付屬令護於法佛尚與人同止諸天不敢不來故佛法中香爲佛事矣

四五

香氣
罪果

一トトニ燃香ノ功其徳大イナルモノナリ因テ唯美香ヲ求テ
 佛ニ供セスニ修善成スルコトカタシ
 サルモノハ香氣ヲ減スルニヨル故ニ其福德正報ナク波頭摩
 地獄ニ墮ノ未來世鼻根ニ香味ナレト要用最經或ハ香ヲ
 以佛ニ供スルトキニ口ヲ合ハセ閉サル者ハ黑糞屎地獄ニ墮ノ
 其半劫ヲツクシテ罪ヲウケ無信慧ノ報ヲ得ル何ヲ以テ故ニ
 下氣ヲ放テ香ヲケスカ故ナリト供養經今人アツテ不好ノ
 香ヲタイテ以佛ノ鼻ヲ空故ニ塞鼻ノ病ヲウレフ是サラニ藥
 餌ノ療スルニアラス唯懺悔滅罪ノ薰カヲ待ヘキノ三民金ト
 云トコロノ玄瓊竜藏寺ノ側ニ住在セリ是ヨリ先ニ鼻塞ノ病ヲ
 ウレフルコト二十餘年香臭ノ氣ヲシルコトナレ忽ニ佛舍利ノ香
 氣ヲカイテ鼻塞ノ病瘥ト又釋ノ靜之鼻肉塞鼻肉ナリ

四六

瓊師
舍利
香
塞
テ鼻
ル迷

四七

靜之
依心經
鼻肉
脱落

ヤメリ百藥ノ方ヲ以醫術ヲツクストイ人トモツ井ニ其驗ヲウルコト
 ナレトキニ一僧アリ般若心經ヲ誦シムルコト一萬遍スステニ五千
 遍ニテシクトセシトキニ鼻肉便チ落テタチトヨニ安ト所引ニ伴續
爲人脣缺從穿魚鰓中來
 五道經云爲人脣缺者鈎魚口缺故矣脣缺トハ世俗ニ元
 イクナト云是ナリ又ハ兎缺ト云兎ノ脣常ニ缺テ脣缺タル人は
 類ス故ニ尔云ナリ順カ和名ニ云續晉陽秋云魏泳之生
 而兎缺俗ニ云辨色立成缺脣也矣方下ト云モノ脣カケテ
 兎ノ口ニ似タリ故ニ時ノ人は脣缺先生ト云角片輪ナルモノ
 及弟シカタキトテ有司奉行是ニ科名ヲアタエサレハ晩年ニ及ニテ
 醫師ヲタノミテ補ヒツタロヒテ後元和中ニ及第シヌレハ人ニ補
 脣先生ト云キ唐音註尤傳云僖公五年輔車相依脣亡齒寒矣

四八

承之
方
缺脣

脣亡毛脣缺毛全同穿魚鰓トハ鰓ハ桑木切煥中骨矣アギト、讀今漁人河海ニノ三餌ヲ鉤頭ニホトコシ是ヲ深潭ニタルハ魚鱗是カタニ鉤テロヲ缺キ鰓ヲ穿キマフラル、故今生缺脣ノ形ヲウクルナリ

為人黃髮從殲殲猪中來

黃髮トハ老人ノ黑髮カハリテ黃髮トナルト云ニハアラス生來ヨリ黃髮ニシテウルハレカサルヲ云ナリ殲殲トハ此兩字具畧有無諸本ノ異有之今ハ具ニ殲殲二字アルノ本ニヨルヘシ其理々々キ故ニ殲ハ將廉切微也盡也滅也刺也春秋齊人殲于遂矣殲ハ息廉切音織獸名猪專於切音諸說文豕也集韻或作猪豕矣問猪豕ヲ殺セルモノ何ノ黃髮ノ報ヲウクルヤ答其理解難今義ヲ以是ヲ試ニ猪豕殺ルトキ痛苦々々カタクシテ

身毛三ナ赤ク黃故ニ其類ヲ以今々々黃髮ノ報ヲ感スルナリ

為人穴耳從窅耳中來

穴耳トハ耳ニ輪ナキモノナリ俗ニ井戸耳ト云是ナリイニシテ聖人老子其耳漫シテ輪ナシ故ニ號ノ聃ト云聃ハ耳曼シテ無輪ヲ云ナリ如是類ヲ穴耳ノ人ト云歟或ハ夏ノ禹王ノ耳ニ三穴アリ渠率カ耳尤モ緩テ肩ニ下ルコト三寸ナリト僖耳國ノ人其耳大ナリ洛下ノ道經耳ハナク長大ナリト三ナ是業報ノ生ナラシ歟窅耳トハ一本ニ穿耳ニ作ル大ニ非ナリ窅字アヤマヒナリ穿韻會云通也廣韻ニ孔也增韻ニ鑽也貫也又鑿金也或作窅矣 為賈字ハ佰贏ト云楚王兵ヲ為賈ニ治ト為賈即治シムルニ七人ノモノヲハ鞭チイシメ三人ノモノヲハ耳ヲ貫通ス國ノ老人三ナ慶賀ス為カ子ノ文賈ナライトケナレヲ

四九 為賈 兵ヲ 治ス 述

五十

穿胸

クレテイタリヨモヨコハス所以者何七人ヲ鞭チ三人ノ耳ヲ
 ツラヌキクルシムル事サラニ我賀ヘキトヨロシラスト 倍公傳ニ見エタリ
 如是人ヲレテ耳ヲ貫穿シクルシムモノ穴耳ノ報ヲウケルナリ
 五道經云生穿鼻人國者布施作福悔惜心故矣穿
 胸國ハ盛海ノ東ニアリ其國ノ人民ニテ胸ニ竅アリ尊貴豪富
 者ノ衣ヲ脱去貧賤ノモノニ命ノ竹木ヲ以胸ノ穴ヲ貫通シテ
 是ヲ擡シメテ行ナリト 牙圖會ニ見エタリ 此即今ノ穴耳ノ報ト相似類
 セルモノナリ

為人蛇體從著輕衣盪突佛像中來

五一

蛇体 名義

五道經云為人生在裸國者輕衣入精舍故矣所引ハ裸形ト
 云 當經ハ蛇体ト云其意同 蛇体トハ皮膚鱗々ナテ蛇形ニ
 フルニ似タリ世ニ鮫膚ト云是ナリ或ハコセ瘡癩疥馬瘡ナド

イヘルニテ此一類ノ症ナリ輕衣トハ輕重ノ輕ニアラス輕傷ノ輕ナリ
 盪突トハ或ハ摑揆亦ハ僂倏ニツクル韻會ニ云僂倏觸也又
 不遜也矣今觸也ノ字訓ヲ以解スルトキハ垢穢不淨ノ衣類ヲ
 著ナカラ佛像ニ觸サルノ義ナリ不遜ノ字訓ヲ以義ヲ釋ス
 トキハ不遜ハ揖讓謙退ニアラサルノ詞ニレテ無禮不義ノ謂ナリ
 故ニ輕衣ヲ著ナカラ佛閣ニ往來ス因テ佛像ヲ恭敬尊重
 コトナキヲ不遜ト云此即盪突ノ義ナリ

為人黑色從安佛像著屋簷下烟熏處中來

安ハ說文止也定也即安置也簷ハ宇彙云移廉切音炎屋
 簷ハ烟煙ト同シ火ノ鬱氣ノ熏ハフスルト訓ス說文云火煙
 上出也本作𤇀从火𤇀𤇀𤇀象也徐曰物之受煙唯草為甚
 故从艸四象穴火炎上出礙於草故為𤇀司馬氏云隸作𤇀

穹室熏鼠謂以草熏之也增韻氣蒸也矣爰二知又前生三
ヲイテ佛像ヲ構カハ一ウクトイヘトモ尊重恭敬ノ心ウスク簷下
煙蒸ノ内ニ擲オキチゾイテ色像黑事黑漆シク桶裏ニ黒汁ヲ盛モニ
似タラシムルコトヲイタセトモ其イタメル心ナキモノ今黒色醜陋ノ報
ヲウクルナリ

五二

釋ノ慧靜姓ハ王氏東阿ノ人ナリ少シテ伊洛ノ
間ニアリテ學セリ後ニ徐兗ト云トコロニアリ容貌モウ分々黒
識悟清遠ナリト見エタリ 慧靜傳ニ如是爽神通悟ノ人顔容黒色ナル
コトヲ得テ定テ知ヌ宿業ノ殘縁ナラシメ或ハ云阿難請戒律

慧靜傳

論云安經像房堂ササ前ササ者依初利天歲數八百歲犯重突
吉羅傍報二億歲墮猪狗中生若得人身一億歲恒常作
客栖屑往來不不得自在安貞矣今經ノ犯罪ト稍同シテ果報尤
異ナリ

爲人癡健從見師長不起中來

癡健トハ癡ハ玉云力貞切癩曲カニ身曲也癡ト癩ト同ノ癡
癡癡ノ癡何レモ通ノ同シ即體傷曲ノ病ナリ癡ハ說文ニ人
不能行也徐曰不能行故止矣賢愚經法華經等ニ癡健ニ
ナク醫經ニ癡健ニナク孫允賢云腫滿癡健矣註ニ癡手足
曲也健人不能行也矣コ則手足カニナリナヘテ行歩ノカナハ
サルヲ癡健ト云ナリ師長トハ周禮云爲人之長訓物之規名
師長矣寶積論云師長者若能助益長秀之聖者也矣今
師長ヲ見テ不起ノ因ノミアラズ癡健ノ受報其因數多ナリ
佛陀耶舍此ニ覺名ト云罽賓國ノ人ニシテ婆羅門種
姓ナリ世外道ノ法ヲ信ノ專ラ邪見ヲ事トキニリ沙門
アリ其家ニ來リテ食ヲ乞其父イカリテ人ヲ沙門ヲ打ト

五三

覺名 父感 現報

五四

慧海 依佛 舍利 瘡疾 瘡述

父遂ニ手脚攀躋ニシテ行止スルコトアタス乃チ巫師ヲ呼テ
 是ヲ問フ巫師答テ曰ク汝人ヲシテ沙門ヲ打シテ犯スヨツテ
 鬼神願現業ヲシテシカラレムルナリト父大ニ驚即沙門ヲ
 請ノ懺悔シヌレハ數日ニ攀躋瘡ヌト高僧傳ニコレハ是
 現因現果ニ約ス又釋ノ慧海佛舍利ヲ熊州ノ十善寺ニ
 送ル其節攀躋シ及ヒ瘡疾ナルモアリ數十年ノ間藥術ヲ
 ツクストイヘトモ瘡コトアタス上キニ佛舍利十善寺ニイタルト云
 コトヲ聞テ與ニ來來テ禮拜シ懺悔シヌレハ忽ニ攀躋ヲ患フ
 安テ身カクク勇健ニシテ步行シテ皈ルト高僧傳ニコレハ是過因現
 果ニ約ス如是業病藥カノ及ホストヨロニアラス唯佛カ冥助ニ
 ヲラスハ何ソ治レ得ルコトアラシマ
 爲入佛脊從輕衣出入背佛像中來

五五

子輿 背癭

五六

崔善 回儻

五七

橐駝 傳

儻ハ龍遇切俯也病儻身曲病也林希逸云偃背曲也儻
 腰曲也俯身伏於地矣脊ハ說文背呂也釋名積也積續
 骨節脉絡上下也矣今儻脊上ハ背肉暴起シテ身前三曲
 行コト俯ナリ和俗ニ背蟲ト云是ナリ子祀ト云モノ行年五
 十四歳ニシテ偃儻ヲマツリ又子輿ト云モノ俄ニシテ拘々タル
 病アリ曲儻ニシテ背ニ發ス故ニ五歳ハ頭ヨリ下ニアルモノナルニ身
 前ニ俯キカニル故ニ五歳ハ還テ頭ヨリ上ニアリ頤ハ臍ヲカクシ
 肩ハ頂ヨリ高ト莊子太宗師 篇ニ見エタリ崔善ハ尚書丞丞ノ官ニラレリ
 身短小ニシテ儻リ又衆人嘲ケリ笑テ云崔善ハ身カニリテ鉤ノ
 如クナリシトイヘトモ例ニシタカクテ封侯ノ官職ニスム臍ノ
 上ニ全ク頸ナレ骨ノ前ニ別ニ頭アリト唐史ニ又郭橐駝
 駝ト云モノアリ姓ハ郭ト云始ハ何ト名ト云コトヲシラス後ニ儻

脊ヲ病テ隆然ト背高ク常ニ伏シテ行ク駝ト云馬背ノ
 肉高クフクシテ索ヲツケタルニ似タリ今郭カ樓樞ヲツ
 ラウテ腰カマリ背高クアカリテ彼馬ニ似タリ故ニ鄉人
 号ノ郭索駝ト云ト索駝傳ニ見エタリ上來背樓ノ形ヲウケルモノ手
 業病ノ感得タラシモノ歟問上ノ著輕衣盪突佛像今ト
 何ノ別ソヤ答一因多果多因一果ナルコト經文多途ナリ一
 概ニシテ論スルコトナカレ例共法華ニ謗法ノ因業ニヨリテ聾
 盲瘖癩貧窮卑賤背樓攀躄暗鈍姓陋等ノ種々ノ
 惡報ヲウクルトイヘルコトシ今モ又余ナリ輕衣ヲ著ノ佛
 像ヲ盪突シ又輕衣ヲ著ノ佛閣ニ往來ノ佛像ニシムク
 コト元一因ナリトイヘトモ其罪因ツヨキニヨルカ故ニ蛇体又ハ
 僂脊ノ多果ヲ緣スルナリ或ハ云上ハ輕衣ヲ著ノ佛像ニ

五八 打額 名義 弘景 傳 五九

フルト輕衣ヲ著ノ佛寺ニ往來出入シテ佛像ニシムコト
 其因是異ナリ應知
為人脛額者從見佛不禮捉手打額中來
 脛ハ說文脛也釋名莖也直而長似物莖也矣今イフコト
 只毛髮ヌケアカリテ額ノホト直ニシテ長シ故ニ脛額ト云世俗ニ
 出額ト云是ナリ **打額**ト古老ノ云佛額ナリト又タ已レカ額ナ
 ト意味各ノ一義ニシテ是非更ニシリカタシ今掌試ニ言フコト已レカ
 額ト見ルコト其理ヨシキ歟ニイカントナハ上ニ見佛不禮ト
 アリステニ佛ヲ見テ禮セシト欲メ還テ禮セス或ハ外道ノ見解ニ
 住シ或ハ貴已等佛ノ慢相額上ニアラハ已カ額ヲ打テカヘル
 故ニ脛額ノ形狀ヲナシ感得セルナリ **陶弘景**字ハ通明身
 長七尺七寸眼アキラカニ眉毛ヤウスク形チヤセテ細額ヒヌケ

アカリテ長ク書ヲ讀コト數萬卷ニシヨフ一事モ不知事アト
 大ナル恥ナリトテ琴瑟ヲ善ク笙ヲ吹クコトヲコノミ圍碁ニ
 タクミニ草隸ノ手カキニ精イマ夕弱冠ナラサルニ齊ノ高祖スミテ
 宰相ノ官ニナレモ後ニ此官ヲ辞シ去テ句曲茅山ニ居ノ
 館ヲタテ自華陽隱居ト号ス馬乘ヲナシ射獵ヲコトス或ハ
 松風ヲ愛メ庭院ニ松ヲ植テ樂トス或トキ夢ミラク佛授記ノ
 勝力菩薩ト号シ至ヘリト祖庭事苑ニ此即佛記ヲウケレホト人
 ナレトモ出額ニシテ慢心ヲカキ人ナリ今分リ知ヌ性習憍
 慢ニシテ佛ヲ禮セス還テ已レカ額ヲ打テカヘル人ナラシメ
爲人短項從見尊長縮頭走避中來
 項ハ說文頭後也矣釋名確也堅確受枕之處矣項短シテ
 肩トヒトシ是ヲ短項ト云世ニイハレハ是ナリ張平子西京

賦鮪鯢鱗魴脩額短項矣五車韻瑞註云介族之形矣コノ
 魚類ニテイクニナル形ヲ云ナリ短項ノ人此等ノ魚ノ形ニ似
 タルニ尊長トハ尊ハ君ト父ト師トヲサス長ハ有徳ノ人及兄
 黨等ヲサスナリレカニ其性ツタナクシテ尊長ヲ見テハキラヒ
 ステ頭ヲ縮テカクレ退ク故ニ其似タルヲ以今又短項ノ形ヲ
 得ナリ玄忠師云誹謗正法毀善賢聖推斥尊長如是
 之人應受拔舌苦瘡苦言教不行苦無名聞苦苦矣
 於中推斥尊長今見尊長縮頭走避ト云ト其意粗類
 感果稍別ナリ是即業果多端ノ謂ナリ
爲人心痛病者從斫刺衆生身體中來
 斫ハ字彙云刀斬也集韻擊也刺ハ說文君殺大夫曰刺
 刺直傷也尔雅殺也公羊傳刺之者殺之也矣耿豪曰按

六十

費氏心痛

カ把稍直斫直刺矣今方り思三因地ニライテ或ハ官吏ノ權
 勢ヨリ或ハ武夫ノ勇力ニカセ一切庶民ニライテ罪科ノ有無ヲ
 夕サス斫之刺之直ニ殺害ス此トキニイタリテ恐ニ至ス心胸疼
 痛スルコトタト上トモナレ故ニ今亦心痛ノ症ヲ患チリ五車韻瑞
 云北齊孝昭性至孝太后嘗心痛帝以爪搗手心血流矣
 宋ノ羅璵力妻ノ費氏ハ寧蜀ノ人ナリ費氏カ父ノ悦ハ宋ノ
 寧州ノ刺史守護ノナリ費氏少トキ敬信ニシテ法華經ヲ誦ス
 コトコニ年久シ忽ニ心痛ヲワツラツテ苦シムコトナクタ
 巳ニ死ニシトス費氏心ニ念スラク我法華經ヲ誦スルコト
 念コトナリヨロシク善祐アルヘシトヨ子カハクハ我誦經ノカニ依テ
 死セサフコトヲ其トキニ即時ニ子ムルコト食頃ホトナリシ夢トモ
 ナク現モアララス佛惣ノ中ヨリ手ヲノヘテ費氏カ心ヲ摩テ

六一

曾參 孝感

六二

敬彙 孝心

カト見ニ時ニ應ノ心痛スヘテ差イト一堂ノ男女奴婢悉金光
 見香氣ヲカクト迷異記ニ此即藥方ノ治スルニ非ス誦經念法ノ
 功薰ニヨレルモノナリ 曾參字ハ子輿ト云母ニツカフニツリテ
 至孝ナリ曾參カツテ薪ヲ山中ニトル或トキ其家ニ客イタルコト
 アリキ參イニ家ニカヘラス母即巴カ指ヲカム參忽ニ心痛ス
 因テ薪ヲ負テ家ニカヘリ母ノ前ニ跪テ其スヲ問母云ク急客
 アリ吾指ヲ咬テ以汝ヲサトスト孝行録ニ又唐ノ裴敬彙カ父
 陳王典ニ殺ル敬彙トキニ城中ニアリ忽ニ自覺テ涕ヲナカシ飲
 食スルコトナレ即殺人ニ謂テ云我大人父九ツ痛トヨアレハ我必
 心ヤスカラス今日心痛テ手足ニ廢コトナリタレナリ事不測
 義ナリニアリト云テ遂ニ故郷ニカヘリヌルニ父果シテステニ
 死セリト見エタリ 今曾參敬彙ノ心痛ハ孝道天感至

今經所制ノカキリニアアラサレナリ

因果經龜鑑卷之五

